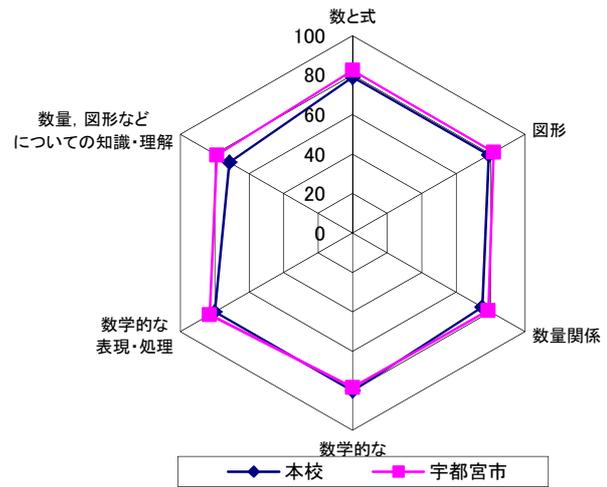


宇都宮市立瑞穂野中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	78.8	82.4
	図形	79.0	81.8
	数量関係	75.1	78.7
観点別	数学的な見方や考え方	80.0	78.3
	数学的な表現・処理	80.0	82.9
	数量, 図形などについての知識・理解	71.6	78.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (78.8%)	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。特に平方根が整数となる値および平方根の変形に関する問題は平均正答率が62.7%、64%と低く、理解が不十分である。因数分解の問題の平均正答率は90%近くあり、よく理解されている。	平方根の必要性とその意味や表し方の理解を深めることが大切である。ルートは新しい数を表す記号であり、これを用いると十分に表し得ない数を簡潔に表現することができるということを理解させる必要がある。
図形 (79.0%)	他の領域と比較すると最も平均正答率が高いが、全体的には宇都宮市の平均正答率より低い。特に三角形の相似比に関する問題は平均正答率が70.7%で宇都宮の平均正答率よりも10.7%低く、理解が不十分である。	三角形の相似比に関する問題を繰り返し授業で扱っていくことで、さらに学習内容の定着を図っていくことに重点をおく必要がある。
数量関係 (75.1%)	全体的に宇都宮市の平均正答率より低い。特に2乗に比例する関数の変域の問題の平均正答率が最も低く、57.3%で宇都宮市の平均正答率より14.4%低い。2乗に比例する関数の利用の問題の平均正答率は88%であり、よく理解されている。	関数的な見方・考え方を苦手とする生徒が多いため、2年時や3年時においても、1年時の領域(比例・反比例)から反復しながら、系統的に授業で取り扱うことに、引き続き重点を置く必要がある。特に関数の式や変域、変化の割合などの問題を丁寧に取り扱い、十分な理解を今後も促していく必要がある。